

ISSN 1880-8824

食と緑の科学

HortResearch

March 2016

70



千葉大学大学院園芸学研究科

Graduate School of Horticulture, Chiba University



SINCE 1909



表紙写真（ペチュニア バカラシリーズの実験栽培株）

表紙写真説明

ペチュニア園芸品種や野生種のアントシアニンとしてシアニン、ペオニン、デルフィニン、ペチュニン、および、マルビジンを基本骨格とした配糖体やアシル化アントシアニンが41種類報告されている。ペチュニアの花色とアントシアニン組成についてはペチュニア野生種で体系的にまとめられているが、園芸品種においては断片的に主要アントシアニンの同定が行われているのみである。ペチュニア園芸品種の中で最もアントシアニンの同定が進んでいて、なおかつ色調が最も豊富なシリーズの一つであるバカラシリーズにおけるアントシアニンの研究としては、赤色系品種の‘バカラレッド’と桃色系品種の‘バカラチェリーローズ’、‘バカラピンク’、‘バカラピンクモーン’、‘バカラローズ’、および‘バカラローズモーン’において詳しい同定が行われている。本研究では、上記の6品種を含むバカラシリーズ全21品種のうち、アントシアニンを含まない‘バカラホワイト’を除く20品種を用いて、アントシアニンの化学構造とアントシアニンの濃度を測定した。さらに、ペチュニアでは花冠の搾汁pHが花色に影響することが古くから報告されており、その機構の一つとして、アントシアニンを蓄積する液胞のpHを低下させるプロトンポンプ複合体が変異するとpHが上昇して花冠が青色化することが知られている。本研究においても各品種の搾汁pHの測定を行い、アントシアニン組成と花色、搾汁pHと花色との関係について調べた結果、いくつかの新しい知見が得られた。（本号掲載論文「ペチュニア園芸品種の花色とアントシアニン」1～8ページ参照。（立澤文見）

食と緑の科学

HortResearch

March 2016

70

千葉大学大学院園芸学研究科

Graduate School of Horticulture, Chiba University

平成 27 年度「食と緑の科学」編集委員会

編 集 委 員 長	沖 津	進
編集委員長代理	小 林	弘 明
編 集 委 員	赤 坂	信
	近 藤	悟
	長	泰 行
	佐 々	英 徳
	相 馬	亜希子
	藤 井	英二郎
	柳 井	重 人
	小 林	弘 明

「食と緑の科学」への投稿を希望される方は、千葉大学大学院園芸学研究科Webページをご覧ください。



平成28年 3 月31日印刷

平成28年 3 月31日発行

編集：「食と緑の科学」編集委員会
発行：千葉大学大学院園芸学研究科

〒271-8510 松戸市松戸648

TEL 047-308-8716

論文

立澤文見, 加藤一幾, 新宮祥矢, 庄野浩資, 國分 尚, 三吉一光, 安藤敏夫: ペチュニア園芸品種の花色とアントシアニン…………… 1

磯田昭弘, 生井(妹尾)幸子: 近代育成ラッカセイ品種の開花結実習性と収量の関係…………… 9

川辺匡介, 大江靖雄: 女性を含む新規就農者の経営満足度に関する要因分析…………… 15

報告

伊達葉月, 阿部真梨, 上原浩一: 千葉大学園芸学部松戸キャンパスにおけるタンポポ類の分布状況…………… 21

研究業績

博士学位論文

Article

Fumi Tatsuzawa, Kazuhisa Kato, Sachiya Shingu, Hiroshi Shono, Hisashi Kokubun, Kazumitsu Miyoshi, Toshio Ando : Flower Colors and their Anthocyanins in Petunia cultivars. …………… 1

Akihiro Isoda and Sachiko Senoo Namai : Effects of flowering and podding habits on yield in Japanese modern peanut Cultivars. …… 9

Kyosuke Kawabe and Yasuo Ohe : Evaluation of factors influencing satisfaction of new comers to farm management: female operators included. …………… 15

Report

Hazuki Date, Mari Abe, Koichi Uehara : The distribution situation of alien and native dandelion in the Matsudo Campus, Faculty of Horticulture, Chiba University. …………… 21

Research outcomes

Doctoral Thesis